

- 問1 古代日本における漢字の伝来とその影響について述べた説明として、最も適切なものはどれですか。大陸から移住してきた人々の活動や、宗教的な背景を踏まえて選びなさい。 (2026年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 聖徳太子が大陸へ渡った際、現地で使われていた文字を日本独自の文字として持ち帰り、仏教の布教に用いた。 | 2. 平安時代の貴族が、仏教の教えを分かりやすく書き換えるために、漢字をもとにして日本で初めて文字を作成した。 | 3. 渡来人が仏教の経典とともに漢字を伝え、日本人が公的な記録や情報の伝達を行う手段として定着した。 | 4. 縄文時代の交易を通じて大陸の文字が広まり、その後、仏教を理解するための補助的な記号として漢字が発明された。 |
|---|---|--|--|
- 問2 日本の関東地方、現在の埼玉県に位置する前方後円墳からは、115文字の銘文が刻まれた金錯銘鉄剣（きんさくめいてっけん）が出土しています。この鉄剣に記された「ワカタケル大王」という名は、当時のヤマト政権の首長を指すとされています。この鉄剣が出土した古墳の名称として正しいものを選んでください。 (2016年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|-----------|---------|----------|
| 1. 稲荷山古墳 | 2. 江田船山古墳 | 3. 箸墓古墳 | 4. 大仙陵古墳 |
|----------|-----------|---------|----------|
- 問3 4世紀から7世紀頃、多くの人々が大陸から日本列島へ移住した歴史的背景と、その後の影響についての説明として最も適切なものはどれですか。 (2021年 島根県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 律令制度を確立した日本が、地方の豪族を管理するために大陸から役人を大量に雇用し、全国各地に配置した。 | 2. モンゴル帝国の侵攻に対抗するため、日本列島から朝鮮半島へ軍事技術を持った集団が移住し、防御を固めた。 | 3. シルクロードを経由した東西貿易を活発にするため、唐の皇帝が日本の平安京へ大規模な商人の集団を派遣した。 | 4. 朝鮮半島の動乱を逃れた人々や、大陸の先進技術が必要とした大和政権に招かれた人々が、漢字や仏教などを伝えた。 |
|---|---|--|--|
- 問4 大和政権（ヤマト王権）において、朝鮮半島から移り住んだ人々の知識や能力が、政権の運営にどのように活かされたか。当時の記録や実務に関する説明として、最も適切なものを選びなさい。 (2024年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 九州北部の沿岸部で、唐や新羅などの外国勢力の侵攻を監視・防御する軍事的な役割に特化した。 | 2. 将軍から土地の支配権を認められる代わりに、軍役や番役を果たす主従関係の基盤となった。 | 3. 独自の文字を開発することで、それまで口伝のみであった日本の神話を初めて文字で記録した。 | 4. 文字の読み書きや計算の能力を活かし、公文書の作成や財政管理といった行政実務を担った。 |
|---|---|--|---|
- 問5 千葉県最大級の前方後円墳である内裏塚古墳が築造された古墳時代の中期には、大陸との交流を通じて新しい製作技術が導入されました。この時期に生産が始まった「須恵器」の特徴を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 表面に魔除けの意味を持つ縄目の文様をつけた、厚手で黒褐色の土器 | 2. 山の斜面などに作られた窯を使い、高温で蒸し焼きにした灰色の土器 | 3. 弥生土器の流れを汲み、野焼きによって比較的低温で焼かれた赤褐色の土器 | 4. 青銅を原料として鑄造され、祭祀の道具として用いられた釣鐘型の道具 |
|------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|
- 問6 埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には、金象嵌（きんぞうがん）によってある人物の名前が刻まれていました。この鉄剣に記されていた大王の名として正しいものを選びなさい。 (2024年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|----------|---------|------------|
| 1. 卑弥呼 | 2. 中大兄皇子 | 3. 聖徳太子 | 4. ワカタケル大王 |
|--------|----------|---------|------------|
- 問7 大和政権の時代、大陸から移住してきた渡来人がもたらした技術や文化について述べたものとして、最も適切なものはどれか。 (2023年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------------|-----------------------------|---------------------------------------|------------------------------|
| 1. 九州沿岸を守るために配置された防人による防衛の仕組み | 2. 唐の法律にならって作られた大宝律令などの統治制度 | 3. 金属を精錬する技術や、高温で焼いて作る硬い土器である須恵器の製作技術 | 4. 遣隋使によって直接もたらされた、隋の進んだ政治制度 |
|-------------------------------|-----------------------------|---------------------------------------|------------------------------|
- 問8 倭の五王の一人である「武」は、中国の南朝の皇帝に上表文（手紙）を送り、自らの祖先がいかにして国土を広げたかを伝えました。この「武」は、日本の歴史上のどの人物であると比定（推定）されていますか。 (2024年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------|--------------|------------------|--------|
| 1. 中大兄皇子（天智天皇） | 2. 聖徳太子（厩戸王） | 3. ワカタケル大王（雄略天皇） | 4. 卑弥呼 |
|----------------|--------------|------------------|--------|
- 問9 5世紀頃、大阪府堺市に築かれた大仙古墳（大仙陵古墳）のような巨大な前方後円墳が造られた歴史的な背景を説明したものとして、最も適切なものを選びなさい。 (2018年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 仏教の伝来とともに寺院建築の技術が導入され、それが大規模な墳墓の造成に利用された。 | 2. 稲作が普及し、食料を貯蔵するための大規模な高床倉庫と一体化した墓が求められた。 | 3. 「大王」と呼ばれる首長を中心とした大和政権（ヤマト王権）の権力が強大化した。 | 4. 律令制度が確立し、戸籍に基づいて全国の民衆を大規模な土木作業に動員できるようになった。 |
|--|--|---|--|
- 問10 埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には「獲加多支鹵大王」という称号が刻まれています。これと同様の称号が記された鉄刀が熊本県の江田船山古墳からも出土していることから推測できる、5世紀後半の日本の政治状況として最も適切な説明を選んでください。 (2021年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------------|-----------------------------------|--|--------------------------------------|
| 1. 各地域の豪族が独自の王号を名乗り、中国の王朝と直接外交を行っていた。 | 2. 邪馬台国の卑弥呼による統治が、近畿地方を中心に安定していた。 | 3. 大和政権（ヤマト王権）の支配力が、関東から九州におよぶ広い範囲に広がっていた。 | 4. 東北地方から九州地方まで、完全に統一された律令国家が成立していた。 |
|---------------------------------------|-----------------------------------|--|--------------------------------------|
- 問11 古墳時代中期（5世紀）の日本において、近畿地方に巨大な前方後円墳が相次いで作られた一方で、熊本県や埼玉県という離れた地域から同一の大王名が刻まれた鉄剣が発見されている理由として最も適切なものを、次の選択肢の中から1つ選びなさい。 (2025年 宮崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--------------------------------------|--|
| 1. 九州地方の邪馬台国が全国の首長を従えて巨大な墳墓を各地に建造させたから | 2. 近畿地方を本拠地とするヤマト王権が地方の首長と結びつき、支配勢力を広範囲に拡大させたから | 3. 中国の皇帝から与えられた鉄剣を全国の首長が共有して保持していたから | 4. 地方の首長たちが独自に近畿地方の技術を模倣し、政治的影響力を強めたから |
|--|---|--------------------------------------|--|
- 問12 5世紀から6世紀にかけて、日本列島には大陸から多くの人々が移り住みました。この時期の遺跡である前方後円墳などからは、円筒埴輪や人物埴輪とともに、高温の窯で焼かれた硬くて灰色をした土器が出土しています。この土器の製作技術を日本に伝え、さらに文字や儒教、仏教といった高度な文化をもたらした人々を何と呼びますか。 (2015年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|-------|-------|--------|
| 1. 渡来人 | 2. 語部 | 3. 防人 | 4. 遣隋使 |
|--------|-------|-------|--------|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 渡来人が仏教の経典とともに漢字を伝え、日本人が公的な記録や情報の伝達を行う手段として定着した。	朝鮮半島や中国大陸から移住した渡来人によって、漢字は仏教の経典とともに日本に伝えられました。当時、文字を持たなかった日本列島の人々は、これを受け入れることで歴史の記録や公的な文書の作成、そして宗教の理解を深めることが可能になり、日本の文明化に大きな影響を与えました。
問2	答え 1 稲荷山古墳	埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には、雄略天皇（大泊瀬幼武尊）を指すとされる「ワカタケル大王」の銘文が刻まれていました。これは、5世紀後半のヤマト政権の支配力が関東地方にまで及んでいたことを示す決定的な証拠となっています。熊本県の江田船山古墳から出土した鉄刀にも同様の名が見られ、支配の広がりを裏付けています。
問3	答え 4 朝鮮半島の動乱を逃れた人々や、大陸の先進技術を必要とした大和政権に招かれた人々が、漢字や仏教などを伝えた。	当時の朝鮮半島は高句麗・百済・新羅が勢力を争う激動期にありました。戦乱を避ける目的や、高度な文化・技術を吸収したい大和政権の要請によって移住が促進され、伝えられた文化は後の飛鳥文化などの発展に大きく寄与しました。
問4	答え 4 文字の読み書きや計算の能力を活かし、公文書の作成や財政管理といった行政実務を担った。	渡来人は優れた技術者であるだけでなく、文字や計算に精通した知識人でもありました。大和政権は、彼らを「史（ふひと）」として起用し、記録の作成や、貢物（税）の管理などの高度な事務・財政実務を担当させることで、政権の統治機構を強化しました。これに対し、防人は主に東国から徴収された兵士が九州の警備にあたった制度であり、御家人は鎌倉時代の武士を指すため、時代や役割が異なります。
問5	答え 2 山の斜面などに作られた窯を使い、高温で蒸し焼きにした灰色の土器	須恵器は、朝鮮半島から伝わった「穴窯（あながま）」という設備を使い、酸素が少ない状態で高温調理（蒸し焼き）にするため、特有の灰色になります。これに対し、同時に使われていた土師器（はじき）は、古墳時代以前からの伝統的な手法である「野焼き」で作られていたため、赤褐色をしています。
問6	答え 4 ワカタケル大王	埼玉県行田市の稲荷山古墳から出土した鉄剣には、115文字の漢字が刻まれており、その中に「獲加多支鹵（ワカタケル）大王」という名が見られます。この大王は、中国の歴史書に記された「倭王武」や、『日本書紀』に登場する雄略天皇にあたると考えられています。
問7	答え 3 金属を精錬する技術や、高温で焼いて作る硬い土器である須恵器の製作技術	渡来人は専門的な技術を持った集団として、大和政権下で重用されました。彼らが伝えた須恵器は、それまでの弥生土器や古墳時代の土師器（はじき）とは異なり、穴窯を用いて1000度以上の高温で焼成された青灰色の硬い土器です。また、鉄製品の加工や農具の改善なども行われ、日本の農業や生活様式に劇的な変化を与えました。
問8	答え 3 ワカタケル大王（雄略天皇）	倭の五王の最後の一人である「武」は、埼玉県で見つかった稲荷山古墳の鉄剣銘などに記された「獲加多支鹵大王（ワカタケル大王）」、すなわち雄略天皇であると考えられています。この時期、ヤマト政権の支配範囲が関東から九州にまで及んでいたことが、金石文と中国の歴史書の両方の記述から裏付けられています。
問9	答え 3 「大王」と呼ばれる首長を中心とした大和政権（ヤマト王権）の権力が強大化した。	巨大な古墳の築造には、膨大な労働力と長い年月が必要です。大仙古墳のような大規模な墳墓は、近畿地方の有力な豪族を中心としたヤマト王権が、広範囲の民衆を動員し、多くの資材を集中させることができるほどの強力な政治支配力を確立していたことを裏付けています。
問10	答え 3 大和政権（ヤマト王権）の支配力が、関東から九州におよぶ広い範囲に広がっていた。	遠く離れた埼玉県の稲荷山古墳と熊本県の江田船山古墳の両方から、同一の大王（ワカタケル大王）の名を記した遺物が出土したことは、その大王を中心とする大和政権の権威や支配力が、すでに関東から九州まで広範に及んでいたことを裏付ける有力な証拠となっています。
問11	答え 2 近畿地方を本拠地とするヤマト王権が地方の首長と結びつき、支配勢力を広範囲に拡大させたから	5世紀には近畿地方を中心に大王の権力を示す巨大な前方後円墳が築かれました。また、関東や九州の地方首長の墓から近畿の大王（ワカタケル大王）の名を刻んだ鉄剣が出土することから、近畿のヤマト王権が各地の首長を配下に組み込み、全国的な支配勢力を拡大させていったと考えられています。
問12	答え 1 渡来人	5世紀から6世紀の古墳時代、朝鮮半島からの移住者である渡来人は、それまでの日本になかった高度な技術や文化を伝えました。土器においては、従来の土師器（はじき）とは異なる、穴窯を用いて1000度以上の高温で焼成する「須恵器（すえき）」の技術をもたらしました。また、漢字を用いた記録や、道徳的な教えである儒教、さらには6世紀に百済から伝えられた仏教など、その後の日本の国家形成に不可欠な知識を普及させました。